

評価報告概要表

全体を通して(このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>国道から入った町の中で、スーパー・飲食店、商店があり、買い物、外出に出かけられる立地条件である。2年前に地域自治会に加入でき行事などに参加してホームを理解してもらっている。職員も常勤換算6・6人と余裕があり、入居者さんともゆっくり接しており、家族からの信頼も厚い。ホームの共用生活空間が広く入居者同士の語らいが見られた。</p> <p>開設以来女性ばかりだったホームに本年から、初めて男性が入居した。今は違和感もなく過ごしている。今年はターミナルケアを実践した経験があり、今後もターミナルケアを受け入れる体制がある。また国際化の先がけとして、今回ネパールの留学生(看護師)が従事していた。</p>	
	特記事項(優先順位の高い要改善点について)
	特になし
生活空間づくり	共有スペースは広い。リビングから、各部屋が見渡せる。この恵まれた空間を有効に利用されリビング以外でも、気の合う入居者同士で、くつろがれる居場所づくりも検討され、さらに魅力的なホームにしてほしい。
ケアサービス	ホームへの連絡通路はエレベーターの利用になっていてエレベータはロックしてある。ホームの入り口は大きなガラス戸で、右側に職員と共有の下駄箱が置いてある。人の出入りも多いためやむを得ず施錠している。施錠しなくても入居者の行動を察知できる方法を考慮してほしい。
	自治会にも2年前から加入して、ホームの前向きな姿勢が伺え、高く評価できる。今後は入居者の楽しみの機会をより充実していくために地域の人々との交流を積極的に広げて、ホームの理解と質の向上に努めてほしい。
運営体制	

分野・領域	項目数	「できている」項目数	
		外部評価	
運営理念			
運営理念	4項目	4	
生活空間づくり			
家庭的な生活環境づくり	4項目	4	
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6	
ケアサービス			
ケアマネジメント	7項目	7	
介護の基本の実行	8項目	7	
日常生活行為の支援	10項目	10	
生活支援	2項目	2	
医療・健康支援	9項目	9	
地域生活	1項目	1	
家族との交流支援	1項目	1	
運営体制			
内部の運営体制	10項目	10	
情報・相談・苦情	2項目	2	
ホームと家族との交流	3項目	3	
ホームと地域との交流	4項目	4	

評価報告書

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム(以下「グループホーム」という。)に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム(以下「ホーム」という。)の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。				センター長・職員共理念はきちんと把握していた。運営規定に記載している入居者の安心と尊厳のある生活を念頭においた支援が伺えた。	
2	3	運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。				居間には「誠実・和」と書いた法人の理念が掲示されていた。事務室には「笑顔」と墨字でかいたものが貼ってあった。	
3	4	権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。				利用契約書、重要事項説明書に明記されており入居者、家族等に説明されている。ホーム受付の所にもファイルしてあった。	
		2. 運営理念の啓発					
4	5	運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。(ホームの説明会、ホーム便り等)				2年前から地域の自治会に加入できた。現在は地域の行事に参加している。インターネットにホームページを開設準備中(年内開設予定)で、啓発に努めている。	
運営理念 4項目中 計			4	0	0		
		生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。(玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等)				併設施設で2階のためエレベーターを利用した入り口である。大きなガラス戸で居間の入居者の様子がよくわかる状態である。表札代わりに、ガラス戸に「グループホーム」と記されていた。	造花でなく、生花が活けてあるとさらによいと思われる。
6	7	家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。				居間の和室に墨絵の屏風が置いてあり、低い椅子もあった。板の間にはソファがあり、落ち着いて入居者同士の会話がはずんでいた。	

項目番号	外部	自己	項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
7	8		共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。				ソファコーナー・畳のコーナー・食堂コーナーで入居者が思い思いの場所でゆったりと過ごしていた。	
8	9		入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。				家具は設置されていた。仏壇を持ち込んだり、親族の写真を貼ったりしていた。転倒しやすい入居者は歩行訓練用の手すりも設置してある等、安心して過ごせるよう配慮がされていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計				4	0	0		
2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり								
9	11		身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)				トイレ、風呂場、廊下などの要所に手すりが設置されていた。台所の流し台も低めになっていた。	
10	13		場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をごさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)				自室の入り口には名前と顔写真、好きな絵を掲げてあり配慮されていた。中に一人は自室を間違える事もあるが、さりげなく誘導している。	
11	14		音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)				廊下の天井は高く、自然の採光が入るように設計されており心地よい明るさであった。周辺に国道があるが、騒音は感じられなかった。	
12	15		換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のおよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。				冷暖房は中央管理で、各室で調節は出来る。ホーム内全体も適切な室温であった	
13	17		時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。				居間には大きな日めくり、カレンダー、時計が設置されていた。	
14	18		活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)				元お花の師匠は花をいけたり、学校の給食婦だった人には、炊事の手伝いをしてもらったり、花の水やり、洗濯ものたたみなどそれぞれ常に活動意欲をうながす物があった。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計				6	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。				入居前には、必ず体験入居してもらい、入居後ひとり一人のアセスメントに基づいて、長期、短期の目標にそって具体的な介護計画を作成していた。	
16	21	介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。				職員の気づきは業務日誌等で確認されており、介護計画書はきちんとファイルされ、いつでも見られるようになっていた。	
17	22	介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。				入居時、本人、家族の要望等をきき、介護計画を作成して了承の押印をうけている。	
18	23	介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時見直しを行っている。				入居者の状態によって随時見直しをする。定期(6ヶ月)には全員見直しをしている。	
19	24	個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。				個人記録には、バイタルチェック・日勤の記録、夜勤は別冊に詳細に記録されていた。	
20	25	確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実にいき、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。				勤務交代時に、業務日誌によって確実に伝達されていた。	
21	26	チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。				月1回チームケア会議開催されており、議事録もきちんと書かれていた。欠席者には記録を見てもらっている。	欠席者の確認印がなかったため、閲覧者の押印が望ましい。
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)				こだわりのある入居者(強度の不安感)に対して何度でも丁寧な対応をしていた。食事の食べこぼしもさり気なくサポートしていた。	
23	28	職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。				おだやかな話しかけをしていた。当日はネパールの留学生(看護師)も勤務しており、上手な日本語で支援していた。	
24	30	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。				元花の師匠は花をいけたり、元学校の給食婦が炊事の手伝い、後片付けするなど生活歴を生かすように努めている。	
25	32	入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。				食事の後、食堂でそのまま入居者同士でおしゃべりしている人、食事の後片付けをしている人、自分の部屋に行く人など、自由に過ごしている様子が伺えた。	
26	33	入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)				食材を買いに行く人、なじみの美容室へ行く人、サービス(階下)に参加する人等自分の意思決定できるよう支援している。	
27	35	一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)				バルコニーのプランターの花の水やり、食後の食器拭きなど、自発的に行動している様子が伺えた。	
28	37	身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。				車椅子利用者は一人だけであった。拘束のないケアを目標にしている。	
29	38	鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)				開設当時、施錠していなかった時入居者が外に出て迷子になった経験がある。現在エレベーターが出入り口になっているためエレベーターの開閉だけはいつもロックをしている。ホームの入り口は職員の下駄箱が一緒になっている関係上、人の出入りが多いこともあり、施錠(ロック)されていることが、多いように思われた。	立地条件上難しいこともあるが、施錠しなくてもよい方法がないか検討してほしい。
介護の基本の実行 8項目中 計			7	1	0		

項目番号	外部	自己	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
			(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30		43	馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。				食器類は陶器で家庭的なものを使用していた。箸は一人だけ補助具的な意味で個人の物を使用していた。入居者の2～3人は自分で買った湯飲みを使用していた。	
31		44	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。				本日の献立は手作りのカレーライスだった。全員、量は少なめ、一人以外は全量摂取していた。	
32		45	個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。				同系列施設と同じ献立を使用している。週2回は手作り献立である。デイサービスに栄養士がいて協力を得ている。1日1300～1500Calである。食事の摂取量は記録されていない。	糖尿病の入居者については摂取量のチェックが望ましい。
33		47	食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。				職員も一緒に同じ食事をとっていた。食事の促し、食べこぼしなどもさりげなくサポートしていた。	
			2) 排泄					
34		48	排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。				2人はトレーニングパンツ、その中1人は夜間オムツを使用している。他の7人は排泄は自立している。	
35		50	排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。				1人だけトイレ誘導をし、さりげなく声がけをしているが、見守りが多い。	
			3) 入浴					
36		53	入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)				毎日入浴できるように準備はしている。毎日入浴する人、週3回入浴する人など、希望に合わせて支援している。	
			4) 整容					
37		56	理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)				月1回ボランティアの美容師に来てもらい利用している。(1回1000円)一人だけ馴染みの美容室に家族が連れていっている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能		改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	<p>プライドを大切にした整容の支援</p> <p>整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)</p>				<p>9人とも清潔感のある容姿であった。食べこぼしの着衣には配慮していた。</p>	
		5) 睡眠・休息					
39	60	<p>安眠の支援</p> <p>入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。</p>				<p>眠剤使用者は3人。そのときの体調で夜間徘徊する人、ロビーのソファに座っている人もいるが、静かに見守りをしている。</p>	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	<p>金銭管理の支援</p> <p>入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。</p>				<p>家族から毎月10,000円を預かり買い物のお金を持ってもらい、支払いの出来る人にはしてもらっている。毎月明細書は家族に渡し確認してもらっている。</p>	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	<p>ホーム内の役割・楽しみごとの支援</p> <p>ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)</p>				<p>生活歴にあわせた支援、場面づくりにも努力している。階下のデイサービスに参加したり、入居者同士楽しそうに話している。</p>	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	<p>医療関係者への相談</p> <p>心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)</p>				<p>階下のデイサービスの看護師が毎日バイタルチェックしている。嘱託医の来訪もある。異常があれば協力医療機関との連携がとれる。</p>	
43	73	<p>早期退院に向けた医療機関との連携</p> <p>入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。</p>				<p>現在入院者はいない。協力医療機関とは連携がとれるよう配慮されている。</p>	
44	74	<p>定期健康診断の支援</p> <p>年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。</p>				<p>入居者全員年2回定期健康診断を医療機関で実施している。健診結果は個人記録に添付されていた。</p>	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	<p>身体機能の維持</p> <p>認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。</p>				<p>近くの商店への食材の買い物、レクリエーションなど日常生活の中で身体機能の維持に努めている。</p>	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	<p>トラブルへの対応</p> <p>職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。</p>				<p>今年の3月から初めて男性一人が、入居したことでささいなトラブルがあった。早めに察知し両方の言い分を聞き、他の入居者への影響を避けるようにしている。</p>	
		(8)健康管理					
47	80	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)</p>				<p>全員義歯である。朝、昼の食後の歯磨き、口すすぎは各自に任せている。夜間の義歯の管理は、できない人には職員が支援している。</p>	
48	83	<p>服薬の支援</p> <p>職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。</p>				<p>服薬しているのは4人。薬の目的も理解しており、食後に手渡しをして確実に飲んだ事を確認している。</p>	
49	85	<p>緊急時の手当</p> <p>入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)</p>				<p>緊急連絡網は作成されていた。職員は一応緊急処置の基礎知識はあるが、緊急時はデイサービスの看護師の応援を得ている。</p>	<p>ホーム職員の緊急時の対応が十分とは言えない。講習は受ける事が望まれる。</p>
50	86	<p>感染症対策</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)</p>				<p>感染症の入居者はいない。発熱時、下痢に対するマニュアルが作成されていた。その対応はなされている。</p>	<p>嘱託医と相談して他の感染症マニュアルの整備も行うことが望ましい。</p>
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)				散歩を兼ね近くのスーパー、商店に出かける。自治会主催の夏祭りにも出かけ楽しんでいる。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)				家族がいつこられても職員が対応しているが、自由に過ごせるように支援されている。今日も東京からこられて、入居者と一緒に出出していた。家族は宿泊しない。(希望する人には、宿泊できるようになっている。)	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。				年1回の理事会の報告を受け、センター長も入居者のケアサービス向上に取り組んでいる。	
54	97	職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。				入居希望者には、必ず体験入居してもらう。その後に入所判定委員会に職員も出席して意見交換する。日常はチームケア会議で話し合っている。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				職員は常勤7人で、(非常勤1人)夜勤月4～5回。職員の希望も配慮されたローテーションである。本日はネパールの留学生が参加していた。	
56	103	継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				採用時の研修は実施されていた。外部研修は、経験に応じて交代で受講している。記録もされ報告もされている。	
57	105	ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				職員相互の親睦会はない。事務室の一角に休息場所があり休息は取っている他は個人でストレス解消をしている。	

項目番号		項目	できて いる	要 改善	評価 不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)				入所判定委員会で、十分意見交換をして決定している。	
59	109	退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				過去の退居者は3人で病状悪化によるもので、家族も納得され退居先も紹介されている。1人は家族の了解で、ターミナルケアまで支援した。	
		4. 衛生・安全管理					
60	114	ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)				ホーム内は清潔であった。炊事場も布巾等も使用後消毒している。食器乾燥器も設置されて使用していた。	
61	116	注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。				薬、洗剤、刃物等は適切に保管されていた。洗濯機の側の空間にモップ、空の洗剤が置かれていた。	空であっても整理整頓は心がけてほしい。
62	118	事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)				事故報告書はきちんと記載されていた。1人だけが、4ヶ月の間に3回転倒が記載されていた。職員の再発防止の意識づけが、望まれる。	
内部の運営体制 10項目中 計			10	0	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	122	調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。				津市は介護相談員派遣事業は実施されていない。外部評価の調査には積極的に情報を提供していただいた。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	128	相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。				ホーム側の相談、苦情の窓口担当者は重要事項説明書に明記されていた。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己					
	7. ホームと家族との交流					
65	131 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。				家族が訪問した時、心身の状況、日ごろの暮らしぶり等を伝え、希望や意見を引き出すようにしている。	
66	132 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）				月1回会計報告に、行事参加の写真を添え、ホームの状況を伝えている。	
67	135 入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的その出納を明らかにしている。				各入居者から月10,000円あずかり、買い物等に使用、出納簿に記入、明細とレシートを月間報告して、家族から同意を得ている。	
ホームと家族との交流 3項目中 計		3	0	0		
	8. ホームと地域との交流					
68	136 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。				受け入れ体制はあるが、依頼はない。	
69	139 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。				2年前に自治会に加入し、行事(夏祭り)、防災訓練等に参加している。自治会役員も、ホームに立ち寄ってくれる。	地域の老人会・保育園児などと交流を広げて、入居者の楽しみの機会を多くしてほしい。
70	141 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）				消防署との連携はとれている。近くのスーパー・飲食店へも出かけて理解を得ている。デイサービスの利用者との交流も行っている。	
71	142 ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）				ヘルパー1級の実習施設や市の新入職員の研修の受け入れを積極的に行っている。ホーム長は病院での認知症の講師をしている。	
ホームと地域との交流 4項目中 計		4	0	0		

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。